

駅前通りの車道空間を活用した実証実験

米子市では、まちなかを「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の空間へと転換し、周辺エリアの活性化につなげていく『歩いて楽しいまちづくり』に取り組んでいます。

1. 米子市が目指す歩いて楽しいまちづくり



2. 実証実験の概要

- 実験期間：2024年11月8日(金)～11月10日(日) 計3日間 ※通行止めは11日(月)16時まで実施
●実施場所：駅前通り（明治町220番地先（駅前通り第1駐車場前）+180番地先（グリーンリッチホテル前））
調査日（令和6年）

※交通量調査は令和6年10月25日(金)～28日(月)に同様の内容でプレ調査を実施



3. 実証実験での取組内容と実施日の様子

実証実験の目的と取組内容

●米子市の推進する「歩いて楽しいまちづくり」の実現に向けて、駅前通りの車線減少による歩行空間の拡幅と利活用の可能性、自動車交通への影響等を調査し、今後の道路空間再構成の可能性やあり方を検証することを目的として実証実験を実施しました。

居心地のよい滞留空間の創出	➢歩道を拡幅した滞留空間の創出 ➢植栽や人工芝による緑豊かな景観 ➢まちなか全体への回遊・波及
滞在型・参加型プログラムによる賑わい創出	➢来街者の滞在時間を増やす仕掛けづくり ➢「謎解き」「風景トレースワークショップ」「プレトークイベント」
効果検証のための調査	➢通行量調査 ➢滞留行動測定調査 ➢ビデオカメラによる人流測定調査 ➢主体別アンケート調査(歩行者・出店者など)
沿道関係者や地域の機運づくり	➢ポスター掲示など広報の連携 ➢実証実験の連携・実施協力

空間レイアウト計画

- だんだんSTATIONは「賑わい」がテーマであり、人々が集い、会話や飲食を楽しむことのできる滞留空間とマーケットの出典スペース等で構成される施設配置としました。
- だんだんLABOは「憩い」がテーマであり、人工芝や植栽、クッションソファ等との組合せにより、居心地よくくつろげる空間づくりを行いました。



実施日の様子

11月8日（金）17:00～21:00 天候：終日晴れ

- 午前からの設営作業が行われ、各滞留施設は夕方から使用が開始されました。
- イベント参加者や周辺飲食店からの通行人など、多くの方が施設に滞在していました。



- プレトークイベントが開催され、多くの聴講者が集まりました。
- ミニマーケットの利用者で通りがさらに賑やかになりました。
- 滞留空間として開放され、通行された方に利用して頂きました。

11月9日（土）10:00～21:00 天候：終日晴れ

- 滞留施設は10時から21時まで開放され、家族連れから高齢者まで幅広い年齢層の方に利用して頂きました。
- 夜間は周辺飲食店を利用されに來た方も多く、終了時刻の21時まで多くの方が滞在していました。



- 屋台で買ったものの飲食スペースとして多くの方が利用されました。
- 緑日が開催され、親子連れの方が多く滞在していました。
- キッチンカーが出店し、飲食される方も多く見られました。

11月10日（日）10:00～21:00 天候：日中晴れ、夕方小雨

- 9日と同様、滞留施設は10時から21時まで開放され、幅広い年齢層の方が滞在していました。
- 周辺イベントとの連携やジャズ演奏会等のイベント実施により、日中は多くの方が訪れました。

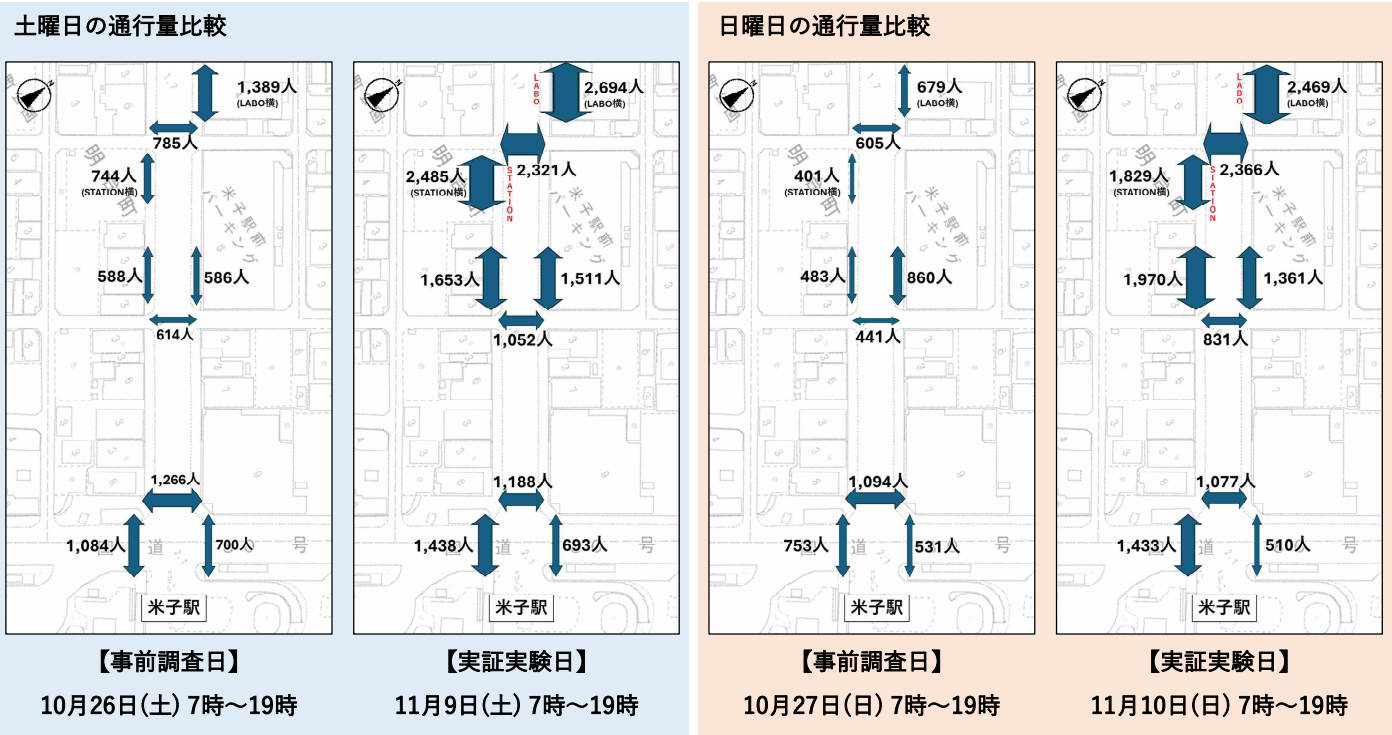


- よなご公共交通ふれあいフェスタとの連携でサイクルポートが設置されました。
- 親子連れの方が多く、風景トレースワークショップや謎解きをされていました。
- ジャズ演奏会を聴講される方で賑わいが生まれました。

4. 交通量調査結果のまとめ

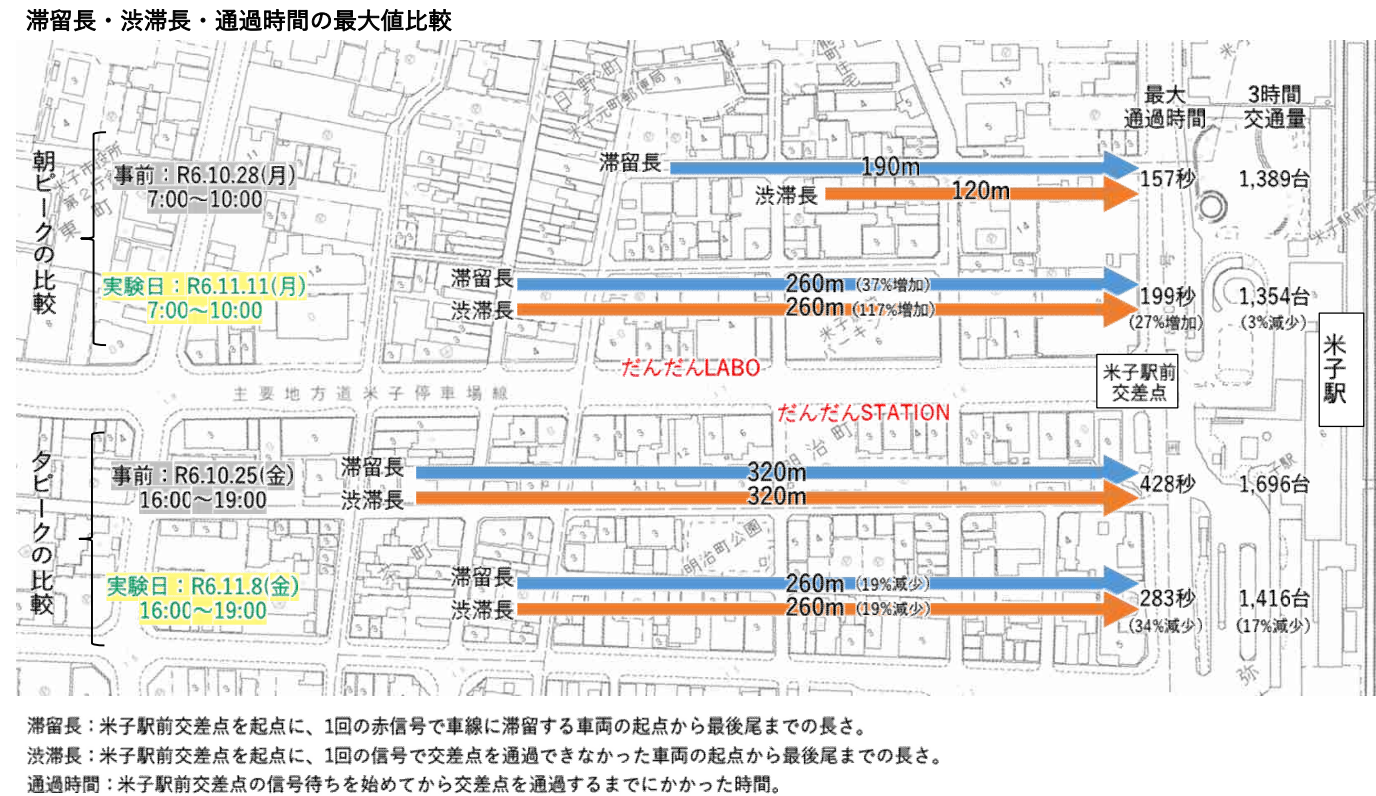
歩行者通行量調査

- 事前調査日と比較して、だんだんSTATION横で約3～4倍、だんだんLABO横では約2～4倍の通行量が確認され、これらをつなぐ横断歩道の通行量も大幅に増加しました。
- 人流増加は駅前交差点に至るまで波及し、実証実験日は各断面で1,000人以上の通行量が確認されました。



自動車交通への影響

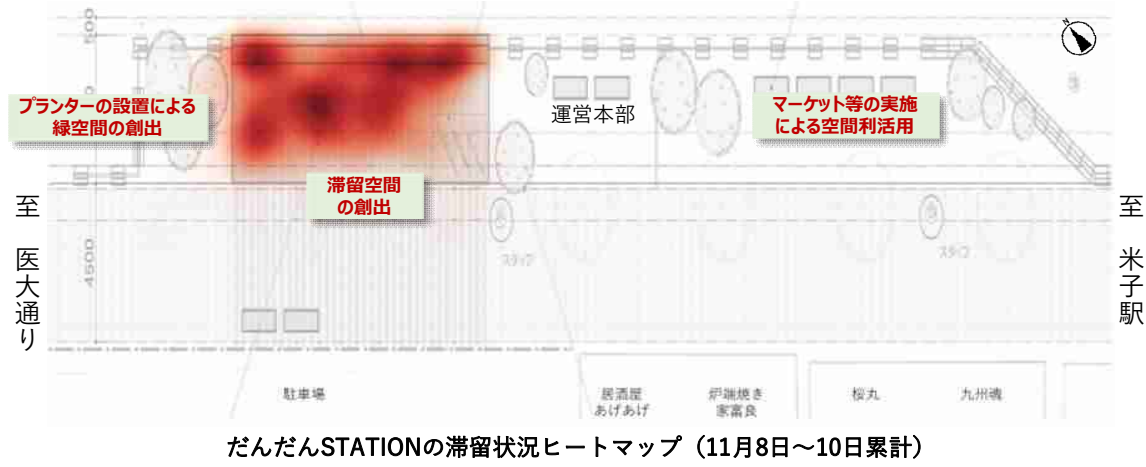
- 土日と比べて交通量の多い平日夕方と平日朝の観測データを用いて、渋滞への影響を検証しました。
- 実証実験による滞留長・渋滞長・通過時間の大きな増加は確認されませんでした。
- 実験日の朝ピークは、やや滞留長と渋滞長が増加しましたが、夕ピークほどは発生しませんでした。
- 実験日の夕ピークは、交通量が減少したこともあり、滞留長と渋滞長はやや減少しました。



5. 滞在行动調査結果のまとめ

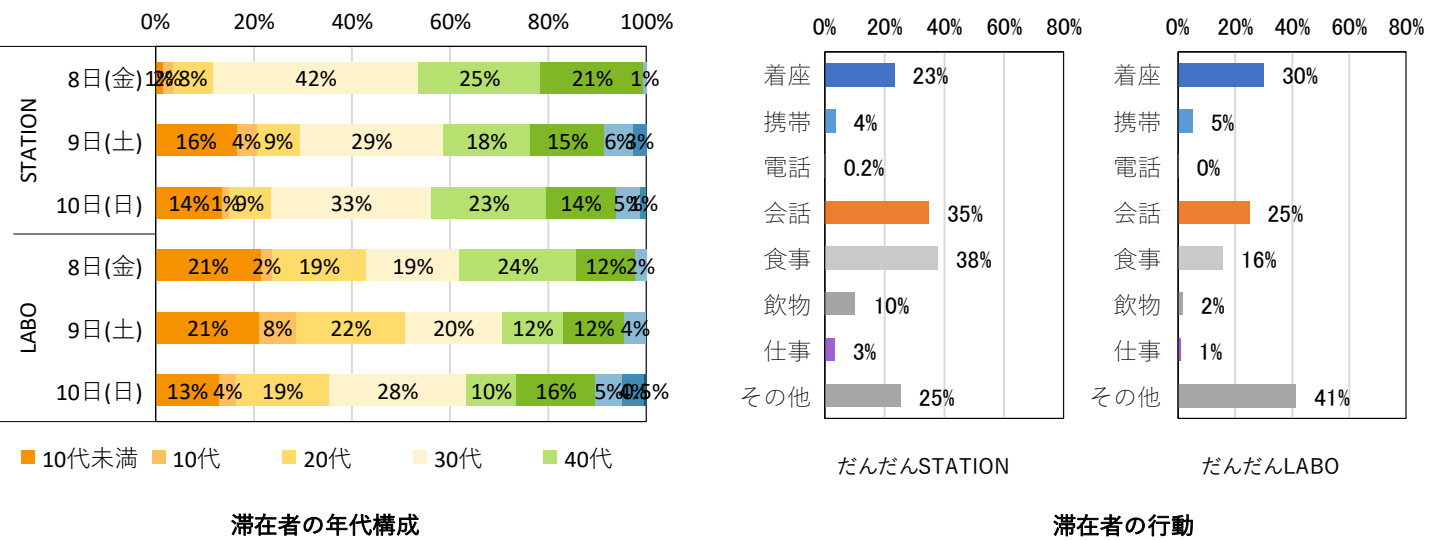
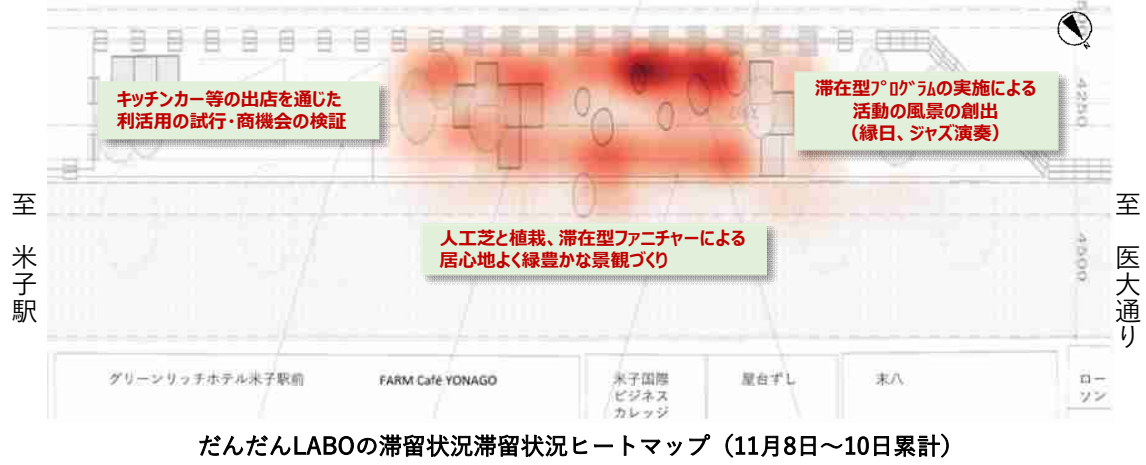
だんだんSTATION（駅前通り第1駐車場前）

- 8日(金)はプレトークイベントの開催等により、30代以上の年代を中心とした滞在が確認されました。
- 9日(土)と10日(日)は日中に親子連れによる利用が増加し、10代未満や30代・40代による滞在が多く確認されました。



だんだんLABO（グリーンリッチホテル前）

- 謎解きの参加等により8日(金)も10代未満による滞在が確認されました。
- 9日(土)と10日(日)も親子連れによる利用が多く見られたほか、20代による利用も一定数確認されました。また、10日(日)はジャズ演奏の鑑賞等のため、60代以上による滞在が増加しました。



6. アンケート結果のポイントのまとめ

歩行者アンケートの結果の主なポイント

(回答数：206件)

- 回答者の6割以上は米子市居住であった。
- 来訪手段は約5割が自家用車、約2割が公共交通機関であった。
- 当日は1時間以上滞在した人が多く、滞在時間が増加した。
- 約8割の回答者が実証実験を「良い」と評価し、座れるスペースや賑わいの創出が好評だった。
- 約1割は「良くない」と評価し、車線減少による混雑が懸念された。
- 今後、座れる場所の増加、店舗の充実、歩行空間の拡大、夜間の安全性確保が求められる。

自由意見の ポイント

- 規模の拡大や場所の工夫
- 安全性と駐車場の問題
- 市民意見の反映と広報不足
- 内容や店舗の充実
- 包括的な取り組みと持続可能性



イベント出店者アンケートの結果の主なポイント

(回答数：11件)

- 全回答者が実証実験全体の評価を「良い」と回答。
「とても良い」と回答したのは約3割だった。
- 売上と立地環境について、9割以上が「良い」と回答した。
- ただし、人通りについては、約2割が「あまり良くなかった」と回答した。
- 今後の出店意向は8割以上が「イベント時に出店したい」と回答し、消極的な回答は見られなかった。

自由意見の ポイント

- イベントの充実度と楽しさ
- 営業環境と安全性の改善
- 広報と周知の徹底
- 出店の利便性向上
- 新しい企画と活動の提案



7. 実証実験から見た効果と課題

効果 1

歩行環境の改善による歩行者の増加とまちなかの賑わい形成に期待

社会実験の実施期間においては、通常時と比べて歩行者が土曜日に約2.4倍、日曜日に約4.0倍と大きく増加し、賑わい形成のきっかけづくりに期待。ただし、今年度は2日間限定の社会実験における効果であり、より長期的、日常的な実験と効果検証が必要である。

効果 2

ベンチ等の設置による滞在性の向上が好評

今回の社会実験のうち、ベンチやみどりによる滞在空間を多くの方が利用した。アンケート調査でも利用者に大変好評であり、滞在空間の設置がまちなかの歩きやすさ向上に効果があることを確認した。

効果 3

駅前通りにおける賑わいづくりの可能性を確認

今回の社会実験で出店に協力いただいた方が多くが立地環境を高く評価した。今後もイベントなどの機会があれば参加したいとの意向があり、まちなかの賑わいづくりの可能性に期待が高まった。ただし、日常的な活用については、より長期での検証が必要である。

課題 1

自動車交通への影響と安全性の確保

今回の社会実験では、駅前交差点における混雑（通過時間の増加）は見られなかったものの、アンケート調査では安全性への懸念や渋滞への心配の意見も多く見られた。今後は広域的な交通影響や安全対策の強化などを検証することが重要である。

課題 2

日常的な通りの賑わい形成と暮らし環境の形成

アンケート調査等では、賑わいづくりに対して好意的な意見があった一方で、安全性や混雑、美観などへの懸念や心配の意見も多数あった。単に賑わい創出だけでなく、交通渋滞への対応や美観など、日常的な暮らし環境の改善も含めた取り組みが必要である。